

わがまちの「ちよつといい話」

NO. 66

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

十二月十二日(水)

から三日間、本年度二回目の「笠松町あいさつ運動」が行われた。

今回、日本列島は寒気団に覆われ、朝の最低気温は連日氷点下。冬至前で早朝は薄暗い。

そんな中をあいさつ場所に急ぐ小中高生。「MSリーダーズ」や「心をつなぐボランティア」ののぼりを立て、出会う人々にあいさつのひと声をかけた。

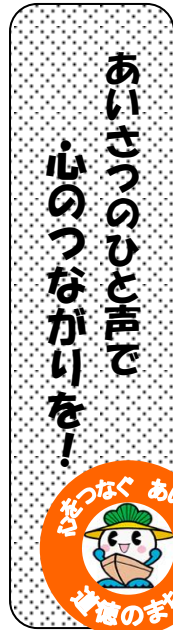
笠松中学校生徒会
があいさつ運動をは
じめて三年目となり、

新たな姿が生れつつある。笠松駅では、
中学生に小学生(笠松小)・高校生(岐
阜工業高や岐阜女子高のMSリーダー)
も加わり、大きな輪になってきた。
各小学校の昇降口では、小学生もあい

さつ運動のタスキやジャケットを身に
つけ、元気な心を込めたあいさつをし、
自ら取り組む姿が広まってきた。

さらに、各小学校PTAの参加も増え
てきた。お父さんやお母さんの笑顔とあ
いさつに、子どもたちの顔も明るくほこ
ろぶ。リーダーの小学生・中学生も保護
者といっしょにあいさつのひと声をか
ける。みんなの顔が輝く。取り組み後に

感じたことを交流したり、「ごくろうさま」
「ありがとう」と声をかけ合ったり



する。こ
の時、み
んながこ
の地で共

に暮らしていると実感する。そんな心の
つながりが生れつつある。

通学路での「見守りたい」の方と子ど
もたちとのあいさつには、自然な心のつ

ながりが感じられる。しかし、小中学生
や高校生から声をかけられた大人の中
には、小声で応えたり軽く会釈したり
して足早に通り返る姿もまだ多い。

昔から、「袖すり合うも他生の縁」と
私たちの先人は人との出会いやつなが
りを大切にしてきた。人とかかわりが
少なくなったといわれる現代。私たちも
あいさつを通して、この町に暮らす心の
つながりを大切にしていきたい。



下羽栗小学校通学路で 中学生が
小学生をさわやかなあいさつで迎える